

## 山辺町地震防災対策

# 揺れやすさマップ

揺れやすさマップとは、想定した地震が起きた時に、町の中でどのくらいの揺れの強さ(震度)になるのかを想定し、約250m四方のメッシュで表したものです。ご自宅の周辺や普段からよく行くところなどについて、想定されている揺れの大きさを確認してみてください。また、大規模な地震が発生した時の対応などを家族や周囲の方と話あってみてください。

### 想定した地震

#### ■山形盆地断層帯

平成14年度に国の地震調査研究本部地震調査委員会において今後発生する地震の規模が大きいとされる断層帯について、震源断層の位置や形状を調査し、その結果を公表しています。このうち、山辺町において特に大きな被害が予想される断層帯は次のとおりです。

#### 山形盆地断層帯:

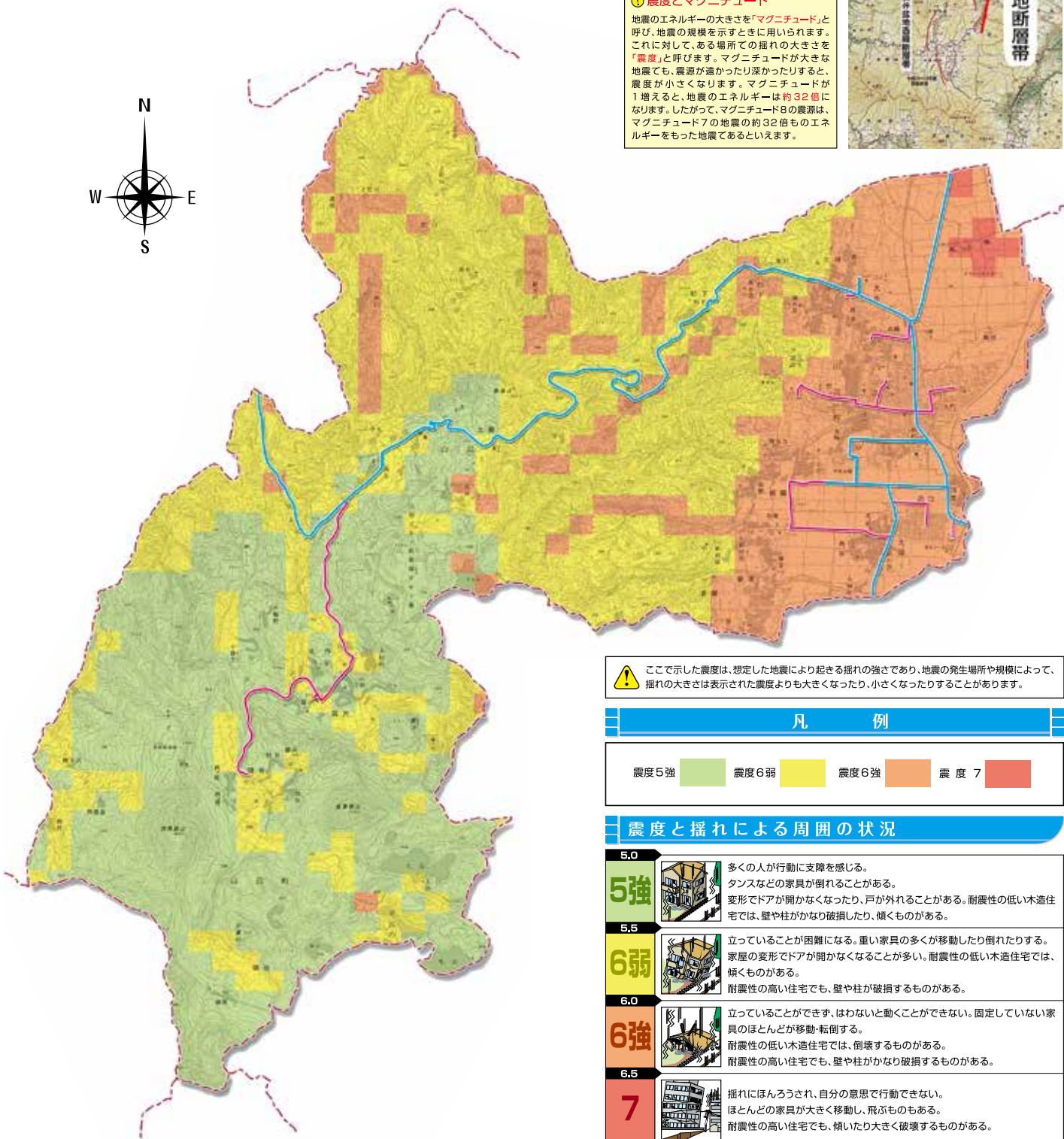
#### 地震の規模マグニチュード7.8

このマップは、上記の断層帯による地震が発生した場合の予想震度を想定して作成したものです。



#### ①震度とマグニチュード

地震のエネルギーの大きさを「マグニチュード」と呼び、地震の規模を示すときに用いられます。これに対して、ある場所での揺れの大きさを「震度」と呼びます。マグニチュードが大きな地震でも、震源が遠かったり深かったりすると、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍になります。したがって、マグニチュード8の震源は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。







⚠️ ここで示した震度は、想定した地震により起きる揺れの強さであり、地震の発生場所や規模によって、揺れの大きさは表示された震度よりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

### 凡 例

震度5強  震度6弱  震度6強  震度7

### 震度と揺れによる周囲の状況

5.0 <b>5強</b>		多くの人が行動に支障を感じる。 タンスなどの家具が倒れることがある。 変形でドアが開かなくなったり、戸が外れることがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。
5.5 <b>6弱</b>		立っていることが困難になる。重い家具の多くが移動したり倒れたりする。 家屋の変形でドアが開かなくなることが多い。耐震性の低い木造住宅では、傾くものがある。 耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
6.0 <b>6強</b>		立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動・転倒する。 耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。 耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。
6.5 <b>7</b>		揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。 ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。 耐震性の高い住宅でも、傾いたり大きく破損するものがある。

※平成21年作成の「揺れやすさマップ」より抜粋・引用しています。